

評価委員会総合評価

研究課題名：地震と津波の監視・予測に関する研究

評価委員

委員長：小泉尚嗣

委員：岩崎俊樹、佐竹健治、関口渉次、泊次郎、渡辺秀文

評価年月日：平成30年11月26日

1. 総合評価

- (1) 実施の可否  可  否  
(2) 修正の必要の有無  修正の必要あり  修正の必要なし

※ 評価委員より修正の必要ありと指摘された事項について、後日、事務局にて必要な修正を行い、平成31年2月に評価分科会として承認いただいた。

2. 総合所見

地震・地殻活動の評価に関する国民の関心・期待は高く、地震動と津波の予測は地震が発生した後の防災情報の作成に関わるものであり、気象研究所が取り組むべき研究課題である。

特に、副課題1における各種指標を統計的に処理して地震活動を評価する研究については、研究者が実施してみる価値はあると考えていても実際に実施される可能性の低い挑戦的な研究であり、本研究において実施する価値は大きいと考えられる。

本研究は、地殻活動の監視、地震動の予測、津波の予測の高精度化を目的としており、これまで、それぞれの研究課題としていたものを1つの研究課題に纏めて、地震・津波の研究分野で一体的に研究を推進していくという姿勢が表れた提案となっている。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について再検討した上で進めて欲しい。

- ・副課題1は、研究の進め方が十分練られておらず、地震活動の変化を示す様々な指標をどのように統合化するのか明確でない。既存研究や新たな解析結果の十分な吟味、それぞれの指標の変化と大規模地震の関連の有無の集約、指標の相互関係についての物理的な背景(モデル)に基づく整理により、統合的な指標を見出すことを目指すべき。
- ・副課題1は、「南海トラフ沿いのプレート間固着状態と津波地震の発生状況

即時把握に関する研究」との相互関係や位置付けが不明瞭であり、違いを明確にすべき。具体的なアウトプットや気象業務への貢献もやや不明である。

- 副課題1の各種地震活動指標及び地震発生シミュレーションの研究は、「南海トラフ沿いのプレート間固着状態と津波地震の発生状況即時把握に関する研究」の中で行った方が適切だと思う。
- 副課題3について津波警報等の解除の目安を与えるということ以外の業務的なニーズも考慮すべき。